

武中の風



<発行>
鹿児島市立
武中学校
鹿児島市武 3-42-1

十五の島立ち

校長 前田 浩二

三年生は受験校も決まり、冬休みを迎えた今、勉強も最後の追い込みに入るところだと思えます。これまで保護者の皆様も、子どもと一緒に受験校を決める過程で随分悩まれたこととお察しします。

私も我が子の受験校を決める際にはとても悩みました。転勤族でしたので、中学校までは転校を覚悟しておきなさいと子どもたちに言ってきました。しかし、高校での転校はさすがにためらわれたため悩みました。長女の高校受験のときも、私がいつ、どこへ転勤になるかわからないため、簡単に地元の高校へ進学させるわけにはいきませんでした。

そんなときに思い出したのが、とある離島の中学校に勤務したときの経験でした。その島には高校は無く、進学するためには島を出て行かなければなりませんでした。それは、単に三年間を島外の高校に通うという簡単な話ではなく、わずか十五歳で親元を離れ、一人で見知らぬ土地で生きていくことなのです。しかも、高校を卒業しても

島へ帰ってくるには限りません。さらに島外や県外に進学や就職をする時、もう一生その子と一緒に暮らすことはないのです。だから、中学校を卒業して島外へ出て行くことを特別な意味を込めて「島立ち」と呼んでいました。私たちは、可愛い我が子を十五歳までしか自分の手元に置いておけないという覚悟をもって、しっかりと愛情を注いで育てていました。地域の方々も、同じ経験をしているの、子どもたちをとっても可愛がっていました。

そして、いざ島外への高校進学が決まり、その高校の入学式を終える子どもとの別れがきます。我が子を寮や下宿先にたった一人残して島に帰る私たちは、フェリーの中で涙を流していました。どれほどの寂しさだったことでしょう。

その頃の光景がよみがえり、私も長女を十五歳で手放す覚悟を決めました。親子でよく話し合い女子寮のある遠方の高校へ進学させることにしました。寂しきや心配や様々な思いは尽きませんが、結果として長女はたくましく成長してくれたと思います。

離島での経験は、子育てができる時間には限りがあり、考えているよりも短いということ、親はそのことを覚悟して、自立していく力を付けさせなければならぬことを私に教えてくれました。

鹿児島市共同募金運動

十二月九日に生徒会役員の生徒が、鹿児島中央駅前で鹿児島市共同募金委員会主催の運動に参加し、募金を呼びかけました。ボランティア活動として貴重な体験となりました。

また、生徒玄関前で毎朝実施するあいさつ運動の中でも、募金活動を実施しました。



新年に向けた門松づくり

武中学校の正門には、健康や安全、合格祈願をした門松があります。門松は、若武セミナーの保護者の方々が十二月一日に設置してくださいました。



持久走・駅伝大会

十二月九日、校内コースで学年別に実施しました。当日は、気候も穏やかで走りやすいコンディションとなり、生徒は最後まで諦めない走りを見せてくれました。学級代表による駅伝では、所々で競り合いもあり応援にも力が入りました。保護者の皆様には、応援だけでなく、安全な運営にもご協力いただきました。ありがとうございました。



三学期の主な行事予定

- 一月 九日 三学期始業式
- 一三日 土曜授業
- 一六・一七日 鹿児島市学習定着度調査
- 二〇日 春の祭典(二年三組)
- 二二日、私立高校入試
- 二六日 三年PTA
- 二九日 一・二年PTA
- 三月 五・六日 公立高校入試
- 一二日 第七七回卒業式
- 一三日 公立高校合格発表
- 二五日 修了式・辞任式